

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業名	ふるさと納税市内特産品等贈呈事業				会計	款	項	目	大	小
					01	07	01	02	02	66
政策	05	5節 賑わいと活気に満ちた流山（産業の振興）			主管課	商工振興課				
施策	5-1	商業の拠点づくりと地域密着型サービスの強化			主管課長	渋谷 俊之				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	市内・市外を限定しない個人	意図	寄附金に対する謝礼として、本市特産品を贈呈することで、本市のPR及び市内産業の振興を図る。
事業内容	寄附金に対する謝礼として、市内特産品等を贈呈する。8基金において寄附金を受け入れ、受け入れた寄附金（ふるさと納税）については、各基金で積立て、基金の目的に沿って役立てる。			
事業開始から現在までの状況変化	平成26年、「白味淋」が誕生200周年を迎えたことに際して、寄附金に対する謝礼の贈呈し、平成27年には「ろこどる絵皿＋ソースセット」、「流山産コシヒカリ」を追加、平成28年には「ファンケル化粧品及び健康食品セット」を返礼品に加えた。さらに、平成29年には「ふるさとチョイス」によるクレジット決済を開始したことで、寄附額が大幅に伸びた。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）	
	①	返礼品贈呈件数	1279	619	1844	件	↑↑↑	実績より
②	返礼品目数	3	9	17	品	↑↑↑		
③								
④								
⑤								
⑥								
指標で表すことができない定性的な成果							目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） ふるさと納税は地方間格差や過疎化などによる税収に悩む自治体に対しての格差是正を図るために平成20年に創設された制度で、近年、多様な目的に多くの自治体に取り組んでおり、多種多様な返礼品が増えたことや税制改正により確定申告が不要になったことなどから、過熱気味となっている。贈呈品に対する魅力や付加価値が求められる現状下にあっては、新たな返礼品の発掘や、開発が求められる。	
事務事業のコスト		平成27年度	平成28年度	平成29年度				
事務事業の総コスト(a=b+c)		5,149,546	4,332,810	12,875,440				
事業費(b)(円)		3,643,546	2,959,810	11,533,040				
うち一般財源		3,643,546	2,959,810	11,533,040				
職員給与費(c)(円)		1,506,000	1,373,000	1,342,400				
人役・職員(人)		0.20	0.20	0.20				
人役・再任用(人)								
人役・臨職(人)								
人役・嘱託(人)								
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）								
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）								

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H29)の改善計画	新たな返礼品を加え、寄附者の想いに応える。	③取組の課題	市内経済の活性化を図るため、魅力ある返礼品の発掘と開発に取り組む必要がある。
②今年度(H29)に実施した取組	これまでの「もの消費」に「こと消費」（消費体験型）を新たな返礼品として加えた。	④今後(H30以降)の改善計画	本市のPR及び市内産業の振興を目的とした商品の発掘や開発のため、商工会議所との連携を図る。